

製品名: PP2A-A β ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16392**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	66kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP2R1B
別名	PPP2R1B; Serine/threonine-protein phosphatase 2A 65 kDa regulatory subunit A beta isoform; PP2A subunit A isoform PR65-beta; PP2A subunit A isoform R1-beta
遺伝子 ID	5519.0
SwissProt ID	P30154
免疫原	抗血清はヒト PPP2R1B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 552-601

背景

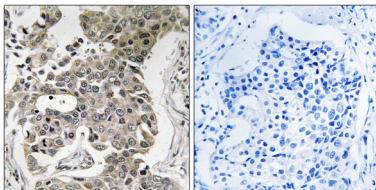
この遺伝子は、タンパク質ホスファターゼ 2 の定常調節サブユニットをコードします。タンパク質ホスファターゼ 2 は、4 つの主要な

セリン/スレオニンホスファターゼの1つであり、細胞の成長と分裂の負の制御に関与しています。本酵素は、触媒サブユニットと定常調節サブユニットからなる共通のヘテロ多量体コア酵素で構成され、定常調節サブユニットは様々な調節サブユニットと会合します。定常調節サブユニット A は、触媒サブユニットと可変調節サブユニット B の組み立てを調整する足場分子として機能します。この遺伝子は、定常調節サブユニット A の β アイソフォームをコードします。この遺伝子の変異は、一部の肺癌および大腸癌と関連付けられています。選択的スプライシングによる転写バリエーションも報告されています。[RefSeq 提供、2010年4月]、疾患: PPP2R1B の欠陥は、一部の肺癌および大腸癌の原因となる可能性があります。ドメイン: 各 HEAT リピートは、親水性領域 (リピート内ループ) で結合した2つの α ヘリックスで構成されていると考えられます。リピート単位は横方向に配列して棒状の構造を形成する可能性があります。機能: プロテインホスファターゼ 2A の PR65 サブユニットは、触媒サブユニットと可変調節 B サブユニットの組み立てを調整するための足場分子として機能します。配列に関する注意: 配列が汚染されています。N 末端部の起源不明の配列。類似性: ホスファターゼ 2A 調節サブユニット A ファミリーに属する。類似性: 15 個の HEAT リピートを含む。サブユニット: PP2A は、36 kDa の触媒サブユニット (サブユニット C) と 65 kDa の定常調節サブユニット (PR65 またはサブユニット A) からなる共通のヘテロ二量体コア酵素で構成され、様々な調節サブユニットと会合する。コア二量体と会合するタンパク質には、3つの調節サブユニット B ファミリー (R2/B/PR55/B55、R3/B'/PR72/PR130/PR59、R5/B'/B56 ファミリー)、48 kDa の可変調節サブユニット、ウイスタンパク質、細胞シグナル伝達分子などがある。IPO9 と相互作用する。SGOL1 と相互作用する。

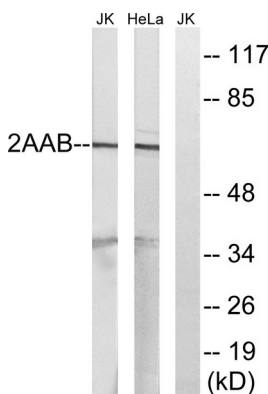
研究分野

卵母細胞減数分裂;WNT;WNT-T CELLTGF-beta;タイトジャンクション;長期抑制;

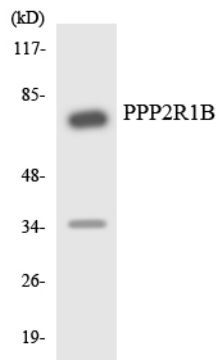
画像データ



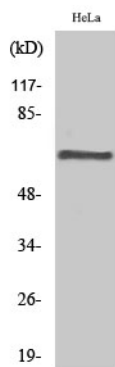
PPP2R1B 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



PPP2R1B 抗体を用いた HeLa 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PPP2R1B 抗体を使用した Jurkat 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



PP2A-A β ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析